

● 2012年8月 [総覧](#) [過去記事](#) [検索](#) [Twitter](#) [Facebook](#)

- 2012/08/30 青森沖セシウム汚染魚の報道姿勢
- 2012/08/27 停電20時間：省エネ超先進国ネパール
- 2012/08/23 ゴルカパトラ/ライジングネパールはどうなっているのか？
- 2102/08/22 権力監視下のネット社会：原子力安全規制情報
- 2012/08/21 赤色と桃色の競艶
- 2012/08/20 大統領の専制化：選挙関連2法署名拒否
- 2012/08/17 プラチャンダの政治センス：「連邦民主共和国連盟」結成
- 2012/08/15 プラチャンダ，「連邦民主共和国同盟」結成
- 2012/08/12 フェイスブックとツイッター：現代の神の地上における代理人
- 2012/08/11 プラチャンダ，バイダとの連携も
- 2012/08/08 中国輸出攻勢：ダムから中国語まで
- 2012/08/07 父権社会ネパールの母子の苦しみ
- 2012/08/05 “We-perspective”の再構築: Dev Raj Dahal
- 2012/08/04 ゾンビ議会か復古王制か
- 2012/08/01 ミスコン不正非難の的外れ

## [青森沖セシウム汚染魚の報道姿勢](#)

1

朝日新聞(8月29日)によれば、青森沖で8月9日に獲れたマダラ(真鱈)から133ベクレル/kgの放射性セシウムが検出された。6月にも116ベクレル汚染魚が獲れていた。このセシウム汚染魚について、朝日は例のごとく、もっぱら「風評被害」の観点から記事を構成し、報道している。

記事見出しが「**基準超すセシウム 突然の検出**」「**広い遊泳 影響か**」であり、記者の状況説明記事に続き、某国立大教授が「**消費者は冷静に**」の見出しで、次のようなコメントを寄せている。

「遊泳力のある魚の場合、海の中を泳いでいるのを捕まえてたまたま高い値が出たからといって近海の魚がみんなダメとみなすのは合理的とは言えない。出荷自粛や停止の範囲は限定的にすることを考えないと漁業への影響が大きすぎる。現在の規制は年間で1ミリシーベルト以下に内部被曝を抑えることが目的で、実際の被曝量は

はるかに低い調査結果が出ている。消費者には冷静に見てほしい。」(朝日  
2012.8.29)

## 2

この記事構成は変ではないか？ 常識で考えれば、はるか離れた青森沖であるにもかかわらず、基準値を超えるセシウム汚染魚が獲れた、確率は低いが皆さん用心しましょう、となるはずだ。ところが、コメントは逆。「たまたま高い値が出たからといって近海の魚がみんなダメと見なすのは合理的とは言えない」という。しかし、某教授にいわれるまでもなく、国民は誰一人として、そんなバカなことは考えてもいない。

国民は、セシウム汚染魚が獲れた以上、確率は低いかもしれないが、いま箸をつけようとしている**その魚**が汚染されている可能性は否定できない、汚染の有無をどのようにして知ればよいのか、そう考え、心配するのだ。

この心配は極めて合理的であり、それが分かるまでは、三陸沖方面の魚を食べるのは控えよう、というのも極めて合理的な判断だ。この国民の合理的な態度を、朝日と某教授は、「**消費者は冷静に**」と呼びかけることによって、放棄させ、政府追従の不合理きわまりない態度をとらせようとしているのだ。

## 3

いま朝日は、政府=財界=土建業と手を組み、「南海トラフ震災死 32 万人」とセンセーショナルに危険を煽り立てているが、もし三陸沖セシウム汚染魚への心配が不合理なら、この「南海トラフ震災」への心配は、その何百・何千倍も不合理だ。福島原発事故は現在進行中であり、魚は毎日のように食べる。危険の切迫度、確率は、南海トラフの比ではない。

南海トラフ震災キャンペーンは、政府=財界=学界=マスコミの共同謀議による「福島原発事故かくし」あるいは「福島原発事故そらし」といってよいだろう。

## 4

29 日付朝日記事は、3.11 以後、繰り返された政府発表「直ちに危険はない」「直ちに影響はない」とうり二つだ。

そのときも指摘したが、国民はそんなことは百も承知だ。大多数の国民は、中・低度被曝の中・長期的影響を心配していたし、いまも心配している。当時の政府発表は、

国民をバカにし、国民の合理的心配にまったく答えようとしなかった。だから、政府も政府系専門家も完全に信用を失ってしまった。もはや、政府や政府系専門家が何を言おうと、国民はまったく信じてはいない。そして、いまや、信じない方が合理的で賢明なのだ。

29日付朝日記事は、国民をバカにし、国民の合理的かつ賢明な心配にまったく答えようとはしていない。政府=財界はまだよい。わかった上でやっている確信犯だから。問題は朝日新聞。なぜ、こんな無反省、無批判な記事を垂れ流し続けるのだろう。まったくもって不可解だ。

谷川昌幸(C)

2012/08/30 20:52

カテゴリ: [社会](#), [情報 IT](#)

タグ: [ジャーナリズム](#), [福島](#), [被曝](#), [原発](#), [批判](#)

## [停電20時間: 省エネ超先進国ネパール](#)

ネパールは、現在、停電7時間/日。地区割りし、スケジュール表を作り、ちゃんと停電を実施している。多少不便だが、特にどうということはない。庶民は冷静に対応している。

政府発表では、乾期になると、停電は20時間/日になる予定。やはりスケジュール表を作り、粛々と実施し変わりなく暮らす。

ネパールはヒマラヤの国であり、水力発電が中心。ダム計画はいくつもあるが、かつては環境保護団体(電力浪費三昧先進国 NGO)の妨害により、次にマオイスト紛争により、そして現在は紛争後混乱により、ほとんどが頓挫、電力需要急増に追いつかない。目下期待は西セティ(750MW)の中国と、上部トリスリ(250MW)の韓国。日本はお呼びじゃないようだ。



(Nepali Times,24-30

Aug)

いずれにせよ、電力はまったく足りないので、急場しのぎにインドからの電力輸入とディーゼル発電機稼働の予定だが、焼け石に水、どうにもならない。かくて、20時間／日の革命的停電が実施されるわけだ。

この窮状を見て、このところ冴えているネパリタイムズが、社説でこんな皮肉をかましている。

**首相の党にとって、パワーは銃口から生まれる。とすれば、次は発電水車からパワーを生みだすべきだろう。**(Nepali Times,24-30 Aug)

ネパリタイムズの立腹はよく分かるが、それはそれとして、20時間／日停電は革命的にすごい。強いられた省エネであるにせよ、それに耐えられる社会は強靱であり、真の意味で健全である。

日本だって、敗戦後しばらくは、裸電球のほの明かりの下で夕食、一家団欒を楽しんでいた。停電は常識、TVもグルメもなかったが、時間と会話と近隣交際はふんだんにあった。

このような形で「省エネ超先進国ネパール」を紹介すると、現場第一主義者からは、安全圏からの無責任放言と非難されるかもしれないが、厳密に言えば、本人以外は多かれ少なかれ部外者、そんなことをいわれたら歴史研究も外国研究も、一切できなくなってしまう。

実感主義、クソ実証主義は、決して「事実」を見ることにはならない。20時間／日停電が「超先進的」であることこともまた、もう一つの「事実」なのである。

[風力発電も原発もイヤだな](#)

[停電16時間の革命的意義](#)

[電力神話からの脱却、ネパールから学べ](#)

2012/08/27 17:31

カテゴリー: [社会](#), [経済](#), [文化](#)

タグ: [ダム](#), [環境](#), [電力](#), [停電](#), [実証主義](#), [実感主義](#)

## [ゴルカパトラ/ライジングネパールはどうなっているのか？](#)

ゴルカパトラ／ライジングネパールが、やはり変だ。先述のように([ゴルカパトラ、ただいま改装中 2012/07/30](#)), このところ、まったく更新されていない。7月13日ないし14日が最後。

### **Gorkha Patra / Rising Nepal: Recent News**

“Nation faces disaster if PM quits without consensus” 2012-07-13 20:48:08

Society must preserve art, culture: Bhattarai 2012-07-13 20:47:14

CA poll best option: Gachchhadar 2012-07-13 20:46:34

.....

たんなる「ネパール流」か、それとも何かあるのか？ ネット版だけなのか、それとも新聞紙印刷版もそうなのか？ 日本ではよく分からない。いったいどうなっているのだろうか？

2012/08/24 10:33

カテゴリー: [情報 IT](#), [文化](#)

タグ: [Gorkha Patra](#), [Rising Nepal](#)

## 権力監視下のネット社会:原子力安全規制情報

ツイッターに教えられ、「[平成 23 年度原子力安全規制情報広聴・広報事業報告書](#)」を覗いてみた。経産省資源エネルギー庁の事業報告なのに、報告書表紙にはなぜか事業主の名はなく、「株式会社アサツーディ・ケイ」が前面に出ている。本文中にも、「経産省」や「資源エネルギー庁」はほとんど出てこない。これだけで、十分に怪しい。

事業目的は、要するに「風評被害」防止。

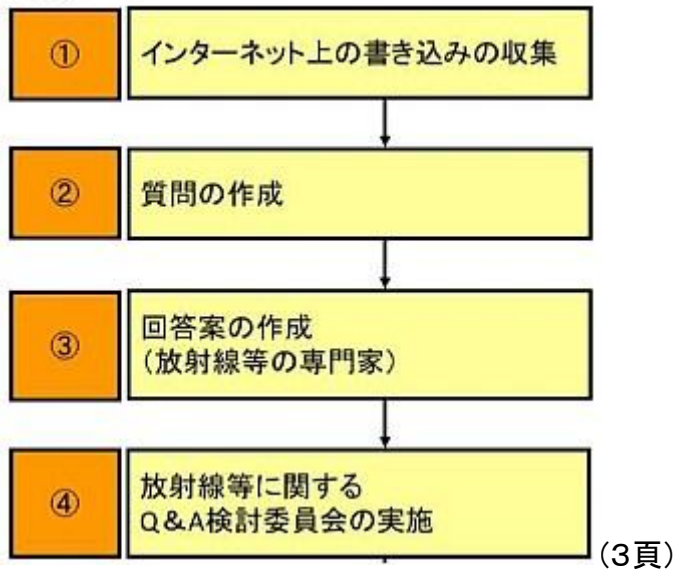
「(2) 事業の目的 インターネット上に掲載される原子力や放射線等に関する情報を調査し、そこから国民の不安や疑問がどのようなところにあるのかを分析して質問(以下Q)を作成した。そのQをもとに回答(以下A)を作成し、そのQ&Aを活用することで、風評被害を防止することを目的とした。」(1-2 頁)

この報告書は、「科学的な根拠に基づく、客観的な視点でAを作成すること」(2頁)をさかんに強調しているが、人々はもはやその「(原発関連)科学」を信じていない。その基本事実を見ることなく、旧態依然たる「科学信仰」で「国民の不安や疑問」を取り除くことなど不可能なのだ。

いまでは、原発科学者の「科学」よりも庶民の原発「風評」の方が、基本的には従って安全であることを国民は知ってしまっている。したがって、税金によるこんな調査や広報が何の役にも立たないことは明白である。しかし、それはそれ、ここでいいたいのは、別のこと。

この「報告書」は、国家権力によるネット監視の具体例としては、なかなか面白い。全体のフロー図はこうなっている。

1.4 全体フロー



そして、ここでは「隠語」がキーワードとして有効とされている。身に覚えがある人も少なくなかろう。

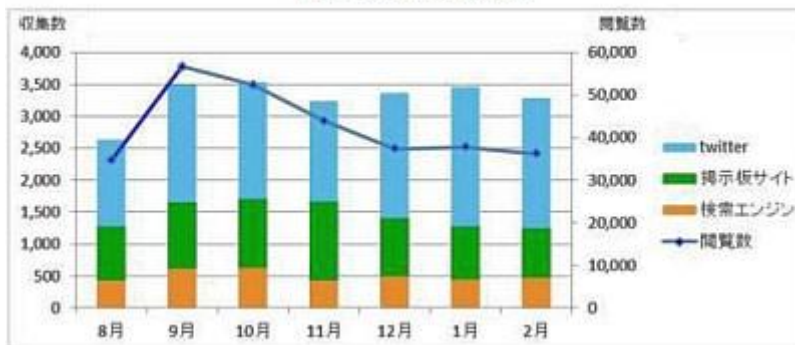
参考資料2.1 特殊表現事例：隠語

放射能	放射脳、放身寸脳
放射能汚染される・された	ベクれる、ベクれた
やたらと安全性を主張する人	安全厨
やたらと危険性を主張する人	危険厨
原子力保安院	原子力不安院

(4頁)

収集先は、ツイッターが多いが、他にも掲示板や検索エンジンからも情報収集されている。

図2.3 閲覧数及び収集数





むろん、この程度のことは、ネット素人の私でも時間さえあれば可能だが、問題はこれはほんの序の口で、実際にはもっと高度なネット監視が権力によって行われているのではないかということ。たとえば、個人メール。企業が従業員のメールを監視していることは常識だが、同じことを国家も国民のメールについてやっているのではないか？ これからは、メールも含め電子情報はすべて監視され、検閲されていると考えて、行動すべきだろう。

谷川昌幸(C)

2012/08/23 20:27

カテゴリ: [情報 IT](#), [人権](#)

タグ: [監視社会](#), [原発](#), [情報化](#), [検閲](#)

## [赤色と桃色の競艶](#)

おなじみの『赤星』。今日はトップにミスワールド写真を大きく掲載している。今年の世界大会は、中国内モンゴル自治区で開催され、中国女性が「ミスワールド 2012」に選ばれた。

開催国、開催地、報道国、報道メディア——ぜ～んぶ、興味深い。



The image shows a screenshot of the website redstarnepal.com. The header includes the site logo and navigation links for MAIN NEWS, NATIONAL, INTERNATIONAL, FINANCE, SPORTS, LITERATURE, DIASPORA, and SCIENCE. The main content area features a large photograph of the Miss World 2012 pageant winners on a stage. To the right of the photo are several news headlines with brief summaries:

- GAJUREL FOR POLITICAL WAY OUT FROM ROUND-TABLE CONFERENCE**  
Ujesh Mahajan, Kirtipur, Aug. 18. Vice-chairman of the CPN-Maoist CP Gajurel has accused ex party chairman Puspa Kandel Dahal as the villain of the Constitution Assembly. Inaugurating the Fourth National Conference of All Nepal Teachers Organization in Kirtipur on Saturday, ...
- PRESIDENT'S MOVE ON ORDINANCES REJECTION POLITICAL-UCPN (MAOIST)**  
Kathmandu, Aug. 18. The UCPN (Maoist) has said that President Dr Ram Baran Yadav had taken a political step by going beyond the constitutional boundary. The UCPN (Maoist) made such statement after the President on Friday rejected two ...
- PROF DR KC BREAKS FAST-UNTO-DEATH**  
Kathmandu, Aug. 18. The hunger strike staged by senior orthopedic physician Prof Dr Govinda KC demanding that appointment of office-bearers at Tribhuvan University Teaching Hospital under Institute of Medicine should not be made on the basis of political ...
- DEUBA URGES PARTIES TO GIVE UP**



2012/08/21 20:30

カテゴリー: [社会](#), [文化](#)

タグ: [ジェンダー](#), [ミスコン](#)

## 大統領の専制化:選挙関連 2 法署名拒否

### 1

ヤダブ大統領( कांग्रेस党)が, バブラム内閣提出の制憲議会選挙関連2法への署名・公布を拒否した(Republica, 18 Aug)。根拠は, 暫定憲法第88条(1)。

**暫定憲法第 88 条 (1)立法議会開会中を除き, 大統領は, 緊急対応が必要と考える場合は, この憲法の諸規定に反しない限りにおいて, 内閣の助言に基づき, 必要な法令(ordinance)を公布することができる。**

あれあれ?! 憲法では、大統領は内閣の助言に基づき行為するはずなのに、ヤダブ大統領は、その憲法規定を根拠として、バブラム内閣提出の法律(ordinance)への署名を拒否した。議院内閣制において、そんなことがあり得るのか?

### 2

ヤダブ大統領の署名拒否理由は、11月22日予定の制憲議会選挙は事実上困難であり、また諸政党の合意もなく、大統領として「satisfy」できないから。つまり、署名・公布の諸条件が整っていないということだろう。

しかし、バブラム首相は、第88条(1)に定める「助言」をしたのであり、にもかかわらず大統領はそれに「満足」しないという。いったい、これはどういうことか? ヤダブ大統領にそのような権限があるのだろうか?

### 3

これは、日本の天皇に置き換えてみるとよく分かる。もし天皇が、内閣の「助言と承認」に満足(satisfy)せず、法律への署名・押印(御名御璽)を拒否したら、どうなるか？ もし天皇がそんなことをしたら、日本の国制は根底から転覆する。天皇には、内閣の「助言と承認」に反する自由はない。何を助言されようが、たとえ天皇制廃止法であれ、機械的に署名・押印するのみだ。

ネパール大統領は日本天皇とは異なり、相当程度の政治的権限を認められている。しかし、法令署名・公布権(88条)をはじめ、非常事態権限(143条)、国軍指揮権(144条)、憲法施行障害除去権(158条)など、実質的な国政に関することについてはすべて「内閣の助言に基づき」権限を行使することが明記されている。それにもかかわらず、内閣の助言を無視し、選挙関連2法への署名を拒否するとは、いったい全体、この国の法治主義はどうなっているのだろうか。リーガルマインドはあるのか？

#### 4

このように大統領が内閣の助言を無視して行動し始めると、それは国王専制よりもはるかに危険な事態になる恐れがある。王制は歴史的に成熟した制度であり、国王には「伝統」の枠があるのに対し、大統領には、現実の力関係を別にすれば、法以外にその手を縛るものはない。その大統領が、もし法を無視し権力行使を始めたら、歯止めがきかなくなってしまう。

すでにヤダブ大統領は、制憲議会選挙には全国民的合意が必要であり、バブラム首相には選挙実施は不可能だ、と発言した。あるいは、統一共産党のオーリ元副首相によれば、ヤダブ大統領はすでにバブラム首相を暫定(caretaker)首相と認定しており、したがって大統領はバブラム首相を罷免できるし、また罷免すべきであるという。

首相(内閣)の助言に基づき行為するはずの大統領が、「満足(satisfy)できないという理由で、首相を罷免する。そんなことがあってよいのだろうか？ もし天皇が、「あいつは気に入らない」といって、野田首相を罷免したら、いったいどうなるのか？

#### 5

こうしたヤダブ大統領の専制化に対し、マオイストは猛反発している。ディベンドラ・ポウデル首相顧問は、「大統領には署名・公布以外の選択肢はない」のであり、署名拒否は反民主的・反憲法的だと述べ、大統領を非難した。プラチャンダ議長も、署名拒否は混乱をもたらすと述べ、大統領を厳しく批判した。

#### 6

選挙関連 2 法をいま成立させることが政治的に賢明か否かは、どちらとも言いがたい。しかし、それは政治判断であり、儀式的大統領の仕事ではない。 कांग्रेस党や統一共産党は、大統領の違憲の政治的利用をやめるべきだ。もし選挙関連 2 法を違憲と考えるのなら、政治闘争により阻止するか、もしくは最高裁に訴え阻止する努力をすべきである。それが法治主義であり、憲政の常道だ。

\* Republica, 18 Aug; nepalnews.com, 18 Aug; ekantipur, 18-19 Aug; Hindustan Times, 18 Aug.

谷川昌幸(C)

2012/08/20 10:33

カテゴリ: [憲法](#), [政党](#), [民主主義](#)

タグ: [議院内閣制](#), [大統領](#), [専制](#), [憲政の常道](#), [法治主義](#)

## [プラチャンダの政治センス:「連邦民主共和国同盟」結成](#)

プラチャンダは、現在のネパールでは、ダントツの政治センスを持つ本物のカリスマである。

### 1. カリスマ政治家としてのプラチャンダ

首相就任後、直ちに「王様ベッド」を首相公邸に搬入させたこと、ルンビニ開発で米中要人や国連事務総長を手玉にとったこと、息子にエベレストを征服させ山頂に赤旗を立てさせたこと——これらすべてが、プラチャンダの政治センスの良さ、カリスマとしての資質をよく示している。

人民は、ネアカのプラチャンダを英雄として愛しており、その証拠に、大金・小金を湯水のごとく使おうが、息子が不倫・逃亡しようが、彼に失脚の兆しは無い。

プラチャンダ非難をしているのは、民衆ではなく、ひがみっぽい小物政治家・知識人である。民衆は、英雄が好きなのだ。

## 2. 民族/ジャーティの政治的制御

その政治家プラチャンダは、他の誰よりも、民族/ジャーティのもつ破壊力を熟知している。人民戦争を勝利させ王制を打倒したのは、プロレタリア「階級」ではなく、被抑圧「民族/ジャーティ」である。

しかし、その一方、民族/ジャーティ帰属意識は非合理的なものであり、日常的な合理的制御は困難である。このこともプラチャンダはよく知っている。民族アイデンティティは破壊には使えても建設には使えない——この洞察をふまえ、プラチャンダはその政治的手腕により民族/ジャーティを政治的に巧妙に利用しつつ、マオイスト革命を前進させようとしているのだ。

## 3. 両面作戦の力わざ

最近のプラチャンダの政策は、多民族(多アイデンティティ)州をにおわせることにより कांग्रेस党と統一共産党に制憲議会選挙実施への譲歩を迫り、これが十分功を奏さないとみると、単一民族(単一アイデンティティ)州に比重を移し、両党の被抑圧民族/ジャーティ派に揺さぶりをかけるという両面作戦である。

難しい両面作戦だが、それを力わざで統合できるのが、プラチャンダのカリスマたるゆえんである。

## 4. 戦略としての連邦共和国同盟

プラチャンダが8月13日結成し自ら議長となった「連邦共和国同盟」も、この両面作戦のなかの一戦略である。

この「同盟」結成により最も大きな衝撃を受けているのが統一共産党。ライ副議長は離党し、ジャナジャーティ(少数民族)のための新党結成を予定。他にも、離党を考えている単一民族(単一アイデンティティ)州主義者は少なくない。あるいは、離党ではなく、残留し、単一民族州のための党内闘争を強化していこうと考えている幹部も少なくない。(ekantipur,16-17 Aug)

そうしたなか、最も注目されるのが、バイダ CPN-M 議長だ。もし彼が「連邦共和国同盟」に参加することになれば、プラチャンダ議長の完勝ということになる。

プラチャンダは、単一民族(アイデンティティ)州など、実現不可能であることをよく知っている。よくわかった上で、その強力なエネルギーを政敵の破壊に利用しようとしているのだ。

こんな恐ろしく危険なことを平然と仕掛けることができるのは、彼が偉大な政治的カリスマだからである。

(参照)Anurag Acharya, “In the name of peace and constitution,” Nepali Times, 16 Aug.

谷川昌幸(C)

2012/08/17 14:49

カテゴリー: [マオイスト](#), [政党](#), [政治](#), [民族](#)

タグ: [アイデンティティ政治](#), [Prachanda](#), [民族](#)

## [プラチャンダ, 「連邦民主共和国同盟」結成](#)

プラチャンダ UCPN 議長が、13日、26政党からなる「連邦民主共和国同盟」を結成し、自ら指導することになった。目的は、「アイデンティティ(帰属集団に基づく)連邦制の新憲法」をつくること。(Republica, 14 Aug)

参加したのは、タライ-マデシ民主党(TMDP)、マデシ権利フォーラム-民主派(MPRF-D)、社会主義人民党、ダリット・ジャナジャーティ党、サドバーバナ党、連邦サドバーバナ党など。また、市民社会からは、民族問題の権威で政治学者の Krishna Hachhethu 氏も参加するという。

26政党とは豪勢だが、どこまで本気なのか？ 発表を見る限り、「同盟」はアイデンティティ政治原理主義だ。帰属集団を基礎にして州を区画し、それらを連邦国家に組織するという。

しかし、このようなアイデンティティ政治原理主義だと、分離した CPN-M(バイダ議長)と何ら変わらなくなる。民族連邦制を唱えることで、離反しつつある被差別諸集団——被差別カースト・民族・女性・地域など——を、UCPN 支持に引き戻すのが狙いと思われる。バイダ CPN-M 議長を干し上げるのが狙いだ。

その一方、プラチャンダ議長がアイデンティティ政治に回帰すると、それに反対するコングレス党(NC)や統一共産党(UML)との対立が深まり、三大勢力の合意による挙国政府の形成は困難となる。そうなれば、制憲議会選挙であれ、それにかわる制憲議会復活であれ、ますます遠のく。

これはバブラム首相の延命にはなるが、現在のような無議会政治がそういつまで続くわけがない。そろそろ、宗主国インドの出番か？

谷川昌幸(C)

2012/08/15 14:03

カテゴリー: [マオイスト](#), [政党](#), [民族](#), [民主主義](#)

タグ: [アイデンティティ政治](#), [Baidya](#), [連邦制](#), [Prachanda](#)

## [フェイスブックとツイッター:現代の神の地上における代理人](#)

おくればせながら、この7月、フェイスブックとツイッターに登録した(下欄リンクボタン参照)。もちろん偽名、偽アドレス。まだ使い方(情報処理の仕組み)がよく分からないが、いまの段階での感想を一言。

1

フェイスブックもツイッターも、伝言板としては大変便利だ。安上がりの電子チラシといったところ。しかし、両者とも、利用者にとっては、それ以上ではないようだ。

ツイッターは、短文、言いつ放し。私が見ているのは、比較的堅い発信者ばかりだが、それでも言葉遣いが必要以上に攻撃的なものがときとしてみられる。

内容的には、ツイッターは、やはり短文、言いつ放しのため、議論が画一化し、レッテル貼りに陥り、深まらない傾向がある。通知や問題提起にはよいが、議論には向かないシステムだ。



これに対し、フェイスブックは、発信情報をかなり多くすることもできるので、使い次第では、議論の場として利用することができるかもしれない。しかし、フェイスブックは、その仕組み(情報処理・情報利用の方法)が複雑であり、まだよく分からない。

## 2

そこで、社会メディアとしての危険性だが、感覚的には、やはりフェイスブックの方がツイッターよりはるかに危険な感じがする。いったんここに書き込むと、その情報がどう処理され、将来どう利用されるかが、皆目見当もつかない。

すでに Amazon は、私の読書傾向を私自身よりもよく知っている。はじめの頃は、薄気味が悪く警戒していたが、便利さに負け使い始めると、慣れてしまい、いまでは自覚的に努力しなければ、恐ろしさを意識しなくなってしまった。Amazon 情報を利用すれば、この数年、私がテロ関係本を検索したり購入したりしていることが分かる。もしかかりに CIA や日本公安に何らかの形で Amazon 情報が漏れていると仮定するなら(そんなことは絶対にあり得ないはずだが)、私はごく下っ端の要注意人物の一人とされている可能性がないではない。その場合、「ネパール」「テロ」「日本人」で検索すれば、私もリストアップされるわけだ。

## 3

フェイスブックは、図書購入中心の Amazon や短文のツイッターとは比較にならないほど多くの情報を集め、関連づけ、蓄積している。誰が、いつ、誰と、どこで、何をしたかを、本人以上によく記憶し、保存している可能性がある。これは、実に恐ろしい事態だ。

しかも、さらに恐ろしいことに、フェイスブックも、Amazon と同様、使い始めると慣れてしまい、危険を危険と感じなくなってしまう。すでに私たちは、グーグルに自宅を覗かれても、Amazon に思想調査をされても、何も感じなくなっている。フェイスブックは、それを「タイムライン」などにより、人の人生全体についてやり遂げることを目標にしている。

もちろん、フェイスブックには非公開の設定もあるのだろうが、設定が間に合わない場合や、設定に気づかない人など、非公開設定にできない場合が無数あると思われる。しかし、そんなことはお構いなく、そうした場合でも全部、公開されてしまうらしい(不慣れなため、詳しくは分からないが)。

グーグルは家を覗き、フェイスブックは人生を覗く。隠されてあることは知りたいことであり、そこに商機がある。

#### 4

しかし、こうしたことは、フェイスブックやグーグルなどに限られたことではなく、ネットを中心とする情報化社会そのもののもつ特性であり、危険である。情報化社会には、もはやプライバシーはない。

プライバシー(privacy)とは、もともと「(世間、公的世界から)引き離された、孤独な、私的な、秘密の(private)」という意味だ。「情報化」は「プライバシー」の反対概念であり、本質的に、両者は相容れない。情報産業が、プライバシー暴露をメシの種とするのは、当然といえば当然だ。

情報化の現代において、もはやプライバシーはない。われわれは、全世界の人々に見られながら丸裸で歩き回っていることを自覚すべきだ。

かつては、教会(神)が誕生から死まで、人の人生を記録し管理した。これからは、普遍的情報システムがすべての人の人生を記録し管理する。神の前にプライバシーは無いように、現代の神としての情報システムの前にプライバシーは無い。

#### 5

もちろん、人として可能な限り抵抗はしてもよいし、すべきである。神を裏切ったときから「人」は始まり、「プライバシー」を享受した。「イチジクの葉」は、人が人となり、プライバシーを得たことの象徴である。

情報化社会においては、われわれは、意図的に自己に関する偽情報を書き込み、この「イチジクの葉」により、隠されてあるべき人間としての自己のプライバシーを守るべきである。それしか、もはや人間が「人間としての尊厳」を守る方法はない。

しかし、偽情報の書き込みにより、現代の神の地上における代理人たるフェイスブックやツイッター、あるいは「マイナンバー制(共通番号制)」等は欺けても、全体を統括する「隠されてある現代の全能の神」は、おそらく欺ききれないだろう。見えない神がすべてを見通す。

人は神への反逆から始まり、反逆により破滅させられる。情報化社会への反逆も、人としては、希望なき戦いとなるであろう。

(参照) [Facebook の恐怖](#)

谷川昌幸(C)

2012/08/12 12:35

カテゴリー: [社会](#), [情報 IT](#)

タグ: [Amazon](#), [タイムライン](#), [ツイッター](#), [フェイスブック](#), [プライバシー](#), [マイナンバー](#), [情報化](#)

## [プラチャンダ, バイダとの連携も](#)

プラチャンダ UCPN 議長が, 分離独立したバイダ CPN-M 議長との連携も視野に入れていることを明らかにした。

この興味深い情報を伝えているのが, 例の「赤星」。マオイスト急進派の準機関紙だったのに, 一転, プラチャンダ議長よりも柔らかく~くなった。

この紙面をご覧いただきたい。世俗主義など素知らぬ顔で, クリシュナ神生誕祭の図を大きく掲げ, その右下に上記プラチャンダ議長発言を掲載している。



**REDSTAR**  
redstarnepal.com

MAIN NEWS NATIONAL INTERNATIONAL FINANCE SPORTS LITERATURE DIASPORA SCIENCE

**GOVERNMENT OBSTRUCTION TO CONSENSUS: LEADERS**  
Kathmandu, Aug. 8: Leaders of various political parties have said the ruling coalition of the UCPN-Maoist and the Madhesi Front was an obstacle to national consensus, inevitable to free the country from the current political and constitutional deadlock. At ...

**NC SHOULD NAME ITS PRIME MINISTERIAL CANDIDATE-OLI**  
Bhaktapur, Aug. 8: CPN-UML leader KP Sharma Oli has said that the Nepali Congress should immediately name its prime ministerial candidate for the leadership of the next government of consensus. Speaking at a press meet organized by Press Chantari ...

**CHANGES SHOULD BE BROUGHT IN SYSTEM OF INVESTIGATING CASES: ATTORNEY GENERAL**  
Myagdi, Aug. 8: Attorney General Mukti Pradhan said the judicial processes have not been effective as the system of investigation followed by Nepal Police and Judiciary has lapses. Pradhan, who arrived here on Wednesday, stressed the need of ...

**Dahal says Baidhya, not Koirala will lead next government**

Kishna's Birth Day  
Kishna with his Gopis. Gals frolic in the garden. It is proved that about 10  
thousand Gopis were attracted towards Krishna's divine nature

OPINION

The Redstar, 10 Aug.

さすが八百万のヒンズーの神々の国、仏様の国。ここでは、毛沢東主義といえども融通無碍、変幻自在だ。

昨日、CPN-M は、UCPN(および NC, UML)と対決するため、他の9政党と連携し「ネパール連邦人民共和国戦線」を結成した。しかし、それはそれ。「赤星」記事のごとく、喧嘩相手の UCPN(プラチャンダ議長)との連携だって、あり得ないことではない。

練達の政治だ。実に興味深い。

谷川昌幸(C)

2012/08/11 11:02

カテゴリー: [マオイスト](#), [政党](#)

タグ: [Baidya](#), [CPN-M](#), [Prachanda](#), [Redstar](#), [UCPN](#)

## [中国輸出攻勢:ダムから中国語まで](#)

### 1. 西セティ水力発電事業

ネパール政府は8月7日、西セティ水力発電事業(W SHEP)を中国企業のCWI(旧CTGI, 三峡公司傘下)に発注する方針を固め、22名の交渉使節団を中国に派遣した。

W SHEP は、発電量75MW, 事業費16億ドル。事業配分は中国75%, ネパール25%。

ダムは、セティ川に建設され、広大な自然と多くの住民に大きな影響を与える。しかし、自然や住民の保護など、マオイスト政府は気にもかけない。なぜなら、マオイストは人民の党だから。そして中国も、大帝国だから、チマチマした地域住民や自然のことなど、眼中にはない。

また欧米の自然保護団体や動物愛護団体は、串本くんだりまで来たり動物供犠に反対したりはしても、W SHEP には反対しないだろう。あるいは、欧米のネパール先住民

支援団体も、事業被害が予想される住民の支援には来ないだろう。中国は大帝国だから。

かくして、中国マオイストは、ネパール・マオイストと手を組み、**インドの川上に巨大ダム**を建設し、確固たる橋頭堡を築くことになる。

(参照)[西セティ水力発電事業](#)



ダム建設予定地

(renewbl.com)

## 2. 中国語授業支援

中国は、文化の中心だから、当然、中国語・中国文化の拡大にも熱心だ。中国大使館は、中国文化祭などを盛んに開催しているし、学校での中国語授業についても8年前に文部省から正式許可を得て、クラスの拡大に努力している(Republica, 5 Aug)。

親たちも、中国の興隆を見て、子供に中国語を学ばせようとし、学校に中国語授業の開設を要求している。いまでは、カトマンズ盆地地区で約60校が中国語授業を行っており、なかには12学年までのコースを置く学校もある。この中国語熱は、地方にも拡大している。

## 3. 辺境国・日本の悲哀

中国政府が偉いのは、こうした中国語学習を、大使館を通して全面的に支援していることだ。文化輸出を外交の基礎としてきちんと位置づけている。その辺が、目先の小利しか追えない辺境の小国・日本との決定的な違いだ。中国は、英帝国や米帝国の仲間だ。日本は到底及びもつかない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)

2012/08/08 15:29

カテゴリー: [インド](#), [経済](#), [外交](#), [中国](#)

タグ: [ダム](#), [環境](#), [開発](#)

## 父権社会ネパールの母子の苦しみ

### 1. 日本の父権制

家族は人間関係の基礎だから、その在り方の変更は容易ではない。私自身、結婚の時、姓を籤で選択したところ、私が負け、戸籍上の姓は妻側のものとなってしまった。(家族法は夫婦別姓を認めていない。)

私にとって、これは便宜的なものに過ぎないが、両親や村の人々にとっては、そうではなかった。姓の変更は「婿」となることを意味し、もはやわたしは「谷川家」の一員とは見なされなくなった。冠婚葬祭も主催できない。このように、日本はまだまだ父権制・家父長制(patriarchy)であり、奥深いところで家族や地域社会の在り方がそれにより規制されているのである。

日本全体についてみても、精神的には父権制が国家の在り方を根底において規定している。皇室典範第1条「皇位は、皇統に属する男系の男子が、これを継承する。」日本は男尊女卑の父権制国家なのである。

したがって、この事実を棚に上げ、ネパールを云々するのははばかれるが、それでも、少なくとも程度問題としてはネパールの父権制は日本のそれよりもはるかに頑迷だとはいってよいであろう。

### 2. 男女平等の暫定憲法

ネパール暫定憲法の権利規定は、世界最高水準にあり、市民権・国籍についても父系と母系の平等を明記している。

「出生時に父または母がネパール国民であった者はネパール国民である。」(第8条2b)

「女性は、ジェンダーを理由とするいかなる差別をも受けてはならない。」(第20条)

「すべて子供は、彼または彼女自身のアイデンティティと名前への権利を有する。」

(第22条1)



完璧といってよい。日本国憲法など、足下にも及ばない。

### 3. 市民権なき子供たち

ところが、実際には、ネパールの母子の権利は、父権制的出生登録・市民登録制度により、厳しく制限されている。

■ Anjali Subedi, “Mother’s identity ‘insufficient’ for child’s birth registration,” Republica, 6 Aug.

スベディのこの記事によると、ネパールでは、母親だけでは、自分の子供の出生届もできなければ、国籍取得もできない。住民登録法(personal events act, 1976)は明記していないが、所管役所では、(1)父と母がネパール人であるか、(2)父の身分証明書の提出がなければ、子供の出生登録は受け付けない。出生届用紙には、子供の父親、祖父、祖祖父の記入欄がある。これらが記入されなければ、受理されないという。まさしく父権制そのものである。

### 4. 身元証明必携の現代社会

スベディによれば、住民登録法制定(1976年)のころは、出生届も市民登録証も、たいの人の実生活においては不必要であった。前近代社会では人々の移動は少なく、身元証明証(identity card)を提示しなくても、誰が誰かを知るにたいした不都合はなかった。

ところが、この数年来、人々の内外での移動が激増、見知らぬ人々間の交際が日常化し、身元証明証が必要不可欠のものとなった。いま村や町の役所には、身分証明証を求める人々が押しかけているという。

現代社会では、市民登録証のような公的身元保証書証なければ、生活は困難となっているのである。

### 5. 市民権なき子供たち

したがって、父が理由で出生届ができないと、子供も、様々なハンディを負わされる。たとえば、入学や旅行の制限。ダリットであれば、月 200 ルピーの給付金が受け取れない、等々。

特にタライでは、[先にも述べたように、インド人の夫との間に生まれた多くの子供が無国籍となる](#)、という深刻な問題が生じている。

## 6. 憲法理念との乖離

ネパールは、日本より遙かに優れた人権保障憲法をもつ国だ。その世界最高水準の人権保障国家において、市民権や国籍が母の子に認められないのは、どう考えても不合理だ。

せめて、頑迷な家父長制国家・日本の子供たち程度には、権利が認められるべきであろう。

谷川昌幸(C)

2012/08/07 15:54

カテゴリ: [社会](#), [人権](#)

タグ: [ジェンダー](#), [父権制](#), [国籍](#), [夫婦別姓](#), [家父長制](#), [市民権](#)

## “We-perspective”の再構築: Dev Raj Dahal

### 1. We-perspective

ネパールにとって、“we-perspective”の再構築は、知識人や政治家が目を向け、誠実に取り組むべき重要課題である。日本とは逆だ。

日本人にとって、「われら日本人」は本性であり、何かことが起こると、一気に顕在化し、他を圧倒し、それ一色となる。たとえば、昭和天皇崩御前後の日本。思い返すたびに、ゾーとし寒気がする。「一億総自粛」、誰が命令したのかよくわからないのに、自粛の雰囲気には反することは、一切できない。戦後民主主義など屁みたいなもので、総自粛全体主義が全国隅々まで遍く支配した。日本人は、世界に例を見ない恐ろしい民族だ。

### 2. 国民統合以前のネパール

ところが、ネパールでは「国民主権」や「国民統合」がいくら叫ばれようが、内面化された「国民」意識は生長しない。1990年と2006年の「人民運動」も、諸集団のエリートによる「大衆動員」の性格が強かった(異論もあるが)。ネパールには、近代的な「国民意識」はまだ存在しない。

### 3. ポストモダン批判

現在のネパールの混乱は、この近代的国民意識未成立の国にポストモダン包摂民主主義を持ち込んだところに、根本的な原因がある。したがって、ネパール平和再構築には、この点への反省が不可欠であるが、最近になって、ようやく、そうした観点からの議論が見られるようになってきた。たとえば：

■Dev Raj Dahal, “Condition of Politics and Law in Nepal, Opening Democratic Discourse for Conflict Resolution,” AAMN Research and Policy Brief: 08, 2012

### 4. われわれ意識と共同善

「一般に、“制憲運動”においては、市民とリーダーたちは、個別利害を棚上げにし、包摂的な“われわれ意識(we-perspective)”を持つことにより共同善を制度化する。主権者たる国民は、リーダーたちに対し、“われわれの観点(we-perspective)”を採ることを義務づける。」(Dahal)

### 5. ニスカム・カルマと普遍的公共性

「ネパールの法制度は、ニスカム・カルマ(無私的行為義務)に基づくネパール社会の伝統と、人権・民主主義・公共性の普遍的基準の間で、バランスを取らなければならない。この二つの間には、……構造的な対立はない。」(ibid)

「ところが、ネパールのポストモダン主義者たちがいま主張しているのは、民族・階級・地域・人種を絶対視する政治であり、そうした政治は、ネパールの歴史的進歩発展を否定し、ネパール人を主権的国民ではなく、社会諸集団や利益諸集団に分解し、そして結局は、ネパール人から国民性と普遍的人類帰属性を奪うことになるものである。」(ibid)

「公共的な法・教育・学問は、単一アイデンティティ決定論に基づく原理主義を抑制する能力と、大衆に向け公共性の理性的構築を訴えかける力をもたなければならない。不平等是正は、アイデンティティ問題にまで極端化させることなく、また社会的協力や平和的共存を困難とするほどまでに硬直化させることなく、政策的解決をはかられるべきである。」(ibid)

### 6. ポスト・ポストモダンの政治

この論文は、かなり難解であるが、主にハーバーマスに依拠しながら、アイデンティティ政治によりズタズタに分断されつつあるネパールを、一つの近代的、あるいはより正確にはポスト・ポストモダン「国民」として再構築しようとする新しい試みの一つとして注目される。

2012/08/05 19:03

カテゴリ: [憲法](#), [政党](#), [民主主義](#)

タグ: [Habermas](#), [identity politics](#), [nation](#), [国民](#)

## ゾンビ議会か復古王制か

制憲議会選挙は、カネと正統性の欠如で、実施がますます難しくなってきた。選挙して何が変わるのか、といったしらせムードが広がっている。

そこで台頭し始めたのが、制憲議会(CA)復活案。NC内では元々強かったし、UMLでも2日、元議員たちが党本部御殿に集まり、5月27日の議会消滅は党指導部の責任だ、選挙ではなくCA復活せよ、との虫のよい要求をとりまとめた。

マオイストは、政権党だから、CA選挙を建前とするが、元議員の多くはいわゆる「〇〇チルドレン」であり、おそらく選挙ではなくCA復活を願っていると思われる。

しかし、このような形での復活議会は、何の正統性もないゾンビ議会であり、成果はあまり期待できない。

選挙も議会復活も困難とすれば、残るは1990年憲法の復活、王制復古となる。これにも、もちろん大きな問題がある。マオイスト革命は、社会構造を大きく変えた。一種の社会革命といってもよいほどである。そうした新しい社会において、旧体制への復古が可能とは到底思われない。もし王制復古となるのであれば、それは天皇以上に無権力の象徴国王とせざるを得ないだろう。

シラケ選挙かゾンビ議会か復古王制か？ いずれもパツとせず、元気が出ないが、アナーキーや専制よりはマシとはいえるであろう。

2012/08/04 09:48

カテゴリ: [選挙](#), [国王](#), [憲法](#), [民主主義](#)

タグ: [象徴国王](#), [制憲議会](#), [正統性](#)

## ミスコン不正非難の的外れ

ネパールでは、ミスコンテスト(ミスコン)がますます盛んになってきた。ミス・ネパールを筆頭に、ミス・ライ、ミス・ネワ、ミス・モンゴル、ミス中西部、ミス 10 代、ミス SLC など、無数にあるそうだ。

ところが、Pramila Rai, “Ugly face of a beauty pagent”(Republica, 30 Jul)によると、ミスコンでは、参加費不正、コネ・買収による不公平選考、セクハラ、参加者いじめなどが横行しているという。

こうしたミスコン批判は他にも少なくないが、それらに共通するのは、ミスコンの不正・不公平はけしからん、公平・合理的に運営・選考せよ、という主張だ。

しかし、これはミスコンの本質を問わない、的外れな議論だ。正式憲法も議会もなく、政党は離合集散、政争に明け暮れ、まともな統治は望むべくもない。経済はガタガタ、地方農村は疲弊し飢餓さえ心配されている。先進国のミスコンをアナクロとするなら、ネパールのミスコンはグロテスクだ。

ミスコンは女の商品化であり、その選考を「合理化」すればするほど、客観性の外観が強化され、差別化が進行する。ミスコンなど、選考が不公平・不合理であればあるほど、社会に与える害は少ない。

ネパールにおいて、公平さ、合理性が求められるべきは、ミスコンではなく、統治においてである。

■ [ミスコン関連記事](#)

■ミスコン事例(一部)



ミス SLC



ミス 10代



ミス中西部



ミス・ライ 2012



ミス・モンゴル 2012



ミス観光 2011

谷川昌幸(C)

2012/08/01 14:28

カテゴリー: [社会](#), [文化](#), [人権](#)

タグ: [ジェンダー](#), [ミスコン](#), [商品化](#), [人権](#)